

領域「社会」の紹介

授業を展開するにあたりマニュアルやハウツーに依存しがちですが、教師には、目の前にいる児童生徒は個性的な存在であり、個別的で具体的な問題解決が必要なのだという知的な姿勢が求められます。社会系教育を担う教師としての知的な姿勢は、教師として自らがどのような社会認識を持っているか、児童生徒が社会の中でどのような生活現実を背負って学校に来ているのかなどを、研ぎ澄ませることで形成されます。

だからこそ、大学生の時には、情報化・価値の多様化・国際化が進む現代社会の中で求められる社会認識とはいかなるものか、そうした社会の中で児童生徒はどのような生活実態を持っているのかなど、生涯を通じて習得すべき視点の基盤づくりが必要です。つまり、昨今、至る所で指摘されている「児童生徒によりよい社会環境を創造していく探究力を習得させる授業づくり」や「児童・生徒の社会認識を育成・深化させて積極的な社会参加を促す授業づくり」を、皆さんが将来、学校で実行していくには、社会科学・人文科学等の基礎的・基本的な素養を習得することが不可欠なのです。

領域「社会」では、主観的なあるいはステレオタイプの教育観・社会科授業観・発達観等から脱却するために、人間と社会を認識し理解する学問を身に付けることに力を置いています。「現実の様々な教育的な課題」にねばり強く対応していくことと直接的に繋がるからです。

1. 担当教員の専門分野と研究室は以下のとおりです。

小沢 奈々 (法学)	: 法学、近代日本法史、比較法史
片岡 浩二 (経済学)	: 理論経済学・社会経済学
金馬 国晴 (生活科・総合学習)	: カリキュラム論、戦時下・戦後日本史
重松 克也 (社会科教育)	: 社会科評価研究・社会科授業研究
鈴木 允 (社会科教育・人文地理)	: 地理教育、歴史地理学、人口地理学
棚橋 信明 (西洋史)	: ドイツ近代史 (都市と市民層) の研究
多和田雅保 (日本史)	: 日本近世史、地域社会論
山根 秀介 (哲学・宗教学)	: 哲学、宗教学、倫理学

2. 各ゼミの演習内容と卒論指導の中心的な内容は以下のとおりです。

小沢 奈々 (法学)

(演習) 具体的な社会問題を手がかりとして、日本の法制度の現状を体系的に把握し、その基本的な課題と問題点について探求する。

(卒論指導) 現代の様々な法学上の問題について、各人の関心に則してテーマを選定する。

片岡 浩二 (経済学)

(演習) 経済に関する基礎的な知識を習得し、現実社会の諸問題について考える。

(卒論指導) 社会科学の視角に基づき経済的な問題について取り組む。

金馬 国晴 (生活科・総合学習)

(演習及び卒論指導) 戦後に各地の学校・地域が作成したカリキュラムの冊子類、元教師へのインタビューの記録などを活用して、生活科・総合学習、カリキュラムの全体構成を問い直す。他に、総合学習の諸テーマや方法、ワークショップほか参画型授業、実践・活動の質的な研究法 (インタビュー、フィールドワーク、ケース研究……)、戦時下・戦後の日本人の生活や思想・社会科学など。

重松 克也 (社会科教育)

(演習) 今日の教育政策の動向に対する分析を通して、いわゆる学校知を相対化した上で社会科教育が自明視している諸点に関する知見を検討する。

(卒論指導) 社会科は学びの視点から市民的資質形成に対して何ができて何ができないかについて、広く社会科教育全般やさらには教育全般についても扱う。

鈴木 允（社会科教育・人文地理）

（演習）今日の地域社会が抱える問題を検討するとともに、それを踏まえた社会科授業のあり方についても検討する。

（卒論指導）人文地理学、または地理教育に関わる諸課題について扱う。

棚橋 信明（西洋史）

（演習）近年の西洋近現代史研究の動向と研究手法について学ぶ。

（卒論指導）近代以降のヨーロッパと北アメリカ地域について個別のテーマを取り上げる。

多和田雅保（日本史）

（演習）日本前近代史、特に近世史に関する基本的知識と研究法を習得する。

（卒論指導）日本前近代史、特に近世史に関する歴史資料の読解に基づいた研究。テーマは政治、経済、社会、文化などなんでもよい。教員と相談しながら定める。

山根 秀介（哲学・宗教学）

（演習）倫理学に加えて哲学や宗教学の古典的な文献の読解と基礎知識の習得、またさまざまな現代の倫理的問題の調査・考察・検討を行う。

（卒論指導）哲学、宗教学、倫理学、思想といった人文学の諸領域から、各人の関心に合わせて個別のテーマを選定する。